

論文題目 韓国における住宅分野の木材利用と温暖化ガス貯留の長期化に関する研究

氏名 崔 洙 林

論文内容の要旨

本研究は、住宅建築における木材利用の実態と木材産業の韓日比較研究を通して、住宅分野における木材利用を展望し、温暖化ガス貯留の長期化の可能性について考察したものである。

まず、韓国の住宅供給構造について考察し、1960年代以降の人口の大都市集中による住宅不足問題に鉄筋、鉄骨コンクリート高層アパートに重点を置いた住宅政策が採用されたこと、したがって住宅分野における木材利用は、木造住宅を中心とする建築用材が大半を占めている日本とは対照的に、建築仮設用材に限定され、住宅用材として長期的、固定的に利用される部分がきわめて少ないこと、したがって、韓国の住宅分野において木質材料等の形で固定されているCO₂の総量は430万t-Cであり、日本1億5,000万t-Cの35分の1にすぎないことを明らかにした。

次に、住宅分野への木材利用に対する消費者ニーズの特徴を韓国と日本におけるアンケート調査によって考察し、韓国においても、消費者の所得水準の向上に伴って日本と同様に、高層アパートにおける内装の木質化への関心が高く、かつ木造住宅への潜在的需要の存在することを明らかにした。

さらに、木材需給と木材産業の構造を分析し、韓国では木材需給構造が1980年代に輸出需要依存型から内需主導型に転換したこと、木材産業の業種的には加工貿易向けの合板産業が後退し、建築内装材、家具用材向けの木質ボード類産業が発展していること、それが日本の木造住宅用材向けの木材産業とは大きく異なること、を明らかにした。また、韓国の森林・林業並びに木材生産及び住宅市場の変化を分析し、今後、生産拡大が見込まれる国産材は、木造住宅が輸入住宅に占有されるため、住宅の高級化や健康志向によって高層アパートの内装の木質化の分野で需要を伸ばすことが期待されることを明らかにした。